

米国:2014 年上半期の再エネ電力導入実績と長期展望¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット 新エネルギーグループ

連邦エネルギー規制委員会 (FERC) のレポート²によると、2014 年上半期に稼働を開始した新規発電容量は 3.53GW で、このうちユーティリティー規模の太陽光及び集光型太陽熱発電プラントの新規発電容量は 1.13GW に上った。これは前年同期に比べ 5% の落ち込みとなるが、新規発電容量全体の 32% を占める。FERC のレポートは、分散型住宅及び商業ソーラー設備は調査対象外としているが、これらを計上すると、2014 年上半期新規発電容量の約 50% が太陽光/太陽熱発電電力となる。

風力発電新規発電容量は 700MW に留まり、2013 年同時期に比べ 27% の落ち込みとなる。バイオマス、地熱発電の新規発電容量はそれぞれ 87MW、32MW であった。

一方、在来型発電は、発電容量 1.55GW の天然ガス発電が新規に稼働を開始したが、前年同期に比べ 65% の大きな落ち込みになった。石炭火力は前年同期には 1.5GW の新規稼働があったが今期はゼロであった。原子力発電は昨年同様、新規稼働はゼロであった。

米エネルギー情報局 (EIA) のエネルギー長期アウトック (AEO 2014)³によると、今後大幅な導入が見込まれるのは太陽光/集光型太陽熱発電と風力発電で、前者は 8GW (2012 年) から 48GW (2040 年)、後者は 60GW (2012 年) から 87GW (2040 年) へ増大する (基準ケース)。太陽光/太陽熱発電の増加量の内、60% がルーフトップ太陽光発電と見込まれている。バイオマス、地熱発電は 2040 年にはそれぞれ 2 倍、3 倍に増加するが、2040 年時点で総再エネ電力容量に占める割合は 10% 以下である。

2012-2040 年の間に新設される在来型発電を含めた総発電容量は、今後運転を停止する 97GW の発電容量を考慮すると 351GW に上る。このうち天然ガス発電が 73%、再エネ電源が 24% (太陽光/太陽熱発電と風力に限ると 19%)、原子力が 3%、石炭が 1% を占める。

お問い合わせ : report@tky. ieej. or. jp

¹ 本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業 (海外省エネ等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² Energy Infrastructure Update (for June 2014)
<http://www.ferc.gov/legal/staff-reports/2014/jun-infrastructure.pdf>

³ Annual Energy Outlook 2014 [http://www.eia.gov/forecasts/aeo/pdf/0383\(2014\).pdf](http://www.eia.gov/forecasts/aeo/pdf/0383(2014).pdf)